

平成28年11月30日



一般社団法人 Bridge for Fukushima

代表理事 伴場 賢一

事務所：〒960-8061 福島市五月町 2-22

連絡先：024-503-9069 メール：info@bridgeforfukushima.org

イベント「BFF 高校生メンバー プロジェクト報告会」のお知らせ

平素より大変お世話になっております。Bridge for Fukushima では、東日本大震災現地 NPO 応援基金 [特定基金] 東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト第 10 回助成事業「次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム」として、高校生が社会課題解決プロジェクトを立ち上げ、社会課題解決に取り組む際のサポートをしております。この度、Bridge for Fukushima 高校生メンバー約 25 名が、自分の取り組むプロジェクトについての報告会を実施いたします。福島県の高校生の日頃の活動や、弊団体の目指す地域像について理解いただける機会となるかと存じますため、是非お越しくださいませ。

記

- 名称 BFF 高校生メンバー プロジェクト報告会
 - ◇ 本事業は東日本大震災現地 NPO 応援基金 JT NPO 応援プロジェクト第 10 回助成事業として実施されています。
- 日時 2016 年 12 月 4 日 (日曜) 午後 2 時～4 時半
- 場所 福島市市民活動サポートセンター会議室 (福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3 階)
- 内容
 - Bridge for Fukushima 高校生メンバー約 25 名による、自分の取り組むプロジェクトについての報告
 - ◇ 高校生は、前日から弊団体にて実施する「BFF 高校生メンバー ロジックモデル合宿」に参加し、伊藤健先生 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師) による指導を受けたのちにこの場に臨みます。同合宿は、以下の 2 つのプロセスを通じ、自分の社会課題解決プロジェクトをより良いものにするを目的に行われます。
 - ①「自分の社会課題解決プロジェクトが、誰の・どんな課題を解決できるのか？」を、ロジックモデルに沿って検討し、プロジェクト内容と目指すゴールを見つめなおす。
 - ※ロジックモデル:ある施策がその目的を達成するまでの論理的な因果関係を明示したものの。投入される資源 (input) 生まれる結果 (output) 最終的な社会的成果 (outcome) の論理関係を示す。ロジックモデルを作成することで、施策のもたらす効果の予測、施策の問題点の事前発見や、施策の事後評価を行いやすくなる。
 - ②「どうして自分がそれをやりたいのか、やるべきなのか」(ハラオチ感)を確認する。
- 観覧お申込み方法
 - ◇ 当日飛び入りでのご観覧も大歓迎でございますが、可能でしたら①お名前②ご所属③ご連絡先電話番号④ご連絡先メールアドレス を、以下の連絡先宛てにご連絡いただきたく存じます。
- 問い合わせ先・お申込み先
 - ◇ メールの方 info@bridgeforfukushima.org
 - ◇ FAX の方 024-503-9069 Bridge for Fukushima 松本 宛

以上